令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果
－分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名　　生野区

学 校 名　　鶴橋小学校

学校長名　　近藤　英幸

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和６年４月18日（木）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数

(2) 質問調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・鶴橋小学校では、第６学年 25 名

学校名　　鶴橋小学校

令和６年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

○平均正答率については、国語科・算数科ともに大阪市・全国の値を下回る結果となった。
○国語科では、特に「情報の扱い方に関する事項」領域や「書くこと」について全国平均と10P程度下回り、課題がみられた。
○算数科では、「Ｄデータの活用」領域について全国平均と14P程下回り課題がみられた。
○平均無答率については、国語は全国平均を下回り、算数は上回る結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］情報の扱い方に関する事項の中で、「情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方」については理解することができていた。「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方を工夫すること」や「資料を活用するなどして、自分の考えがつたわるように表現を工夫すること」に課題が見られた。
［算数］「数量の関係を、□を用いた式に表すことができる」ことに成果が見られた。
「球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる」ことや「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」ことに課題が見られた。

質問調査より

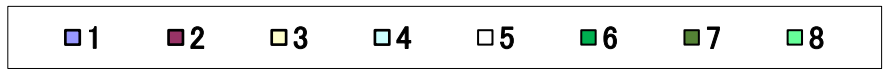
◎「自分には、よいところがある」の項目に最も肯定的な回答をした児童の割合は、64％で全国平均より20％高い。
◎「授業や学校生活では、友達や周りの人を大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の項目について、最も肯定的な回答をした児童の割合は、52％で大阪市や全国の平均と比べて5％ほど高い結果となった。
⇒学校での様々な活動において、お互いに認め合い協力することで、自分の良さに気づいたり、自信をもって行動したりすることができていると言える。
○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」の項目について、肯定的な回答をした児童の割合は96％で大阪市や全国の平均の値とほぼ変わらなかった。
○「学校へ行くのは楽しいと思いますか」の項目について、最も肯定的な回答をした児童の割合は48％と大阪市や全国より2％程度高かったが、肯定的な回答全体で見ると、80％となり、大阪市や全国の値より4％程度低い結果となった。
⇒いじめはいけないことと肯定的にとらえていない4％の児童、また学校が楽しいと回答していない児童について、教職員・保護者・地域と連携して見守っていく必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

○国語科では、説明的文章の読解を中心に、教材分析をを教員全員で共有しながら、授業のユニバーサルデザイン化（視覚化・焦点化・共有化）に取り組み、特に要約等の書くことを重点においた授業の充実を図る。
○算数科では、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための学習展開を行いながら、習熟度別少人数授業やチームティーチング等授業形態を工夫する。また、算数が苦手な児童については、放課後にその児童にあったプリント学習(放課後スペシャル)を進めていく。
○今後も、言語活動や体験活動を通して、学びを深め、友達と交流しながら、児童が「わかった、できた」と実感を伴うような活動の充実を図り、児童の学力及び自己肯定感の向上につなげていく。

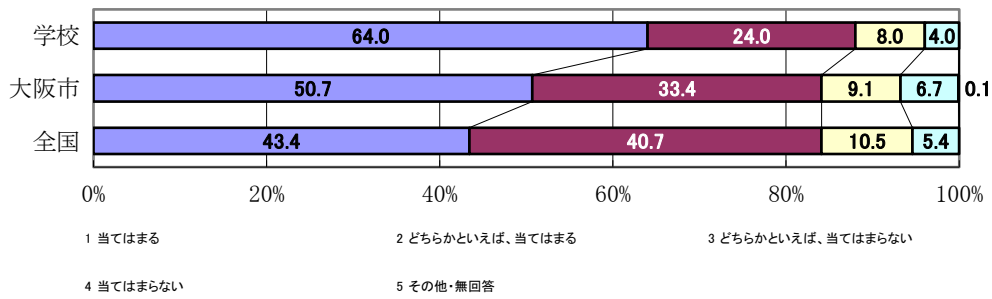
児童質問より

質問番号
質問事項



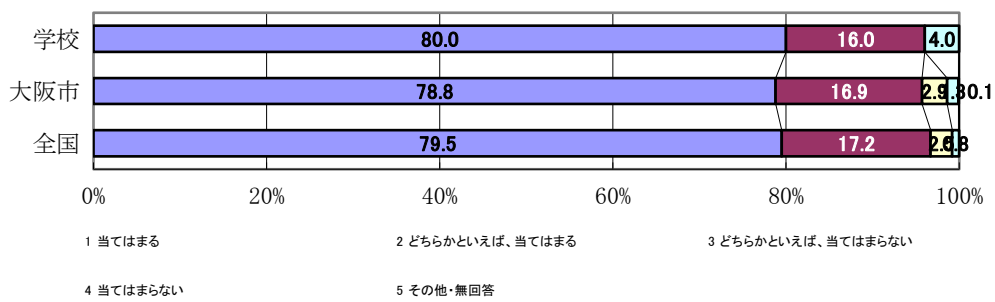
9

自分には、よいところがあると思いますか



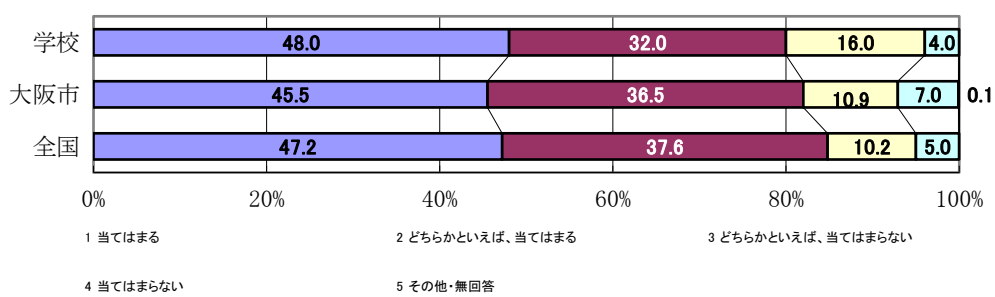
13

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



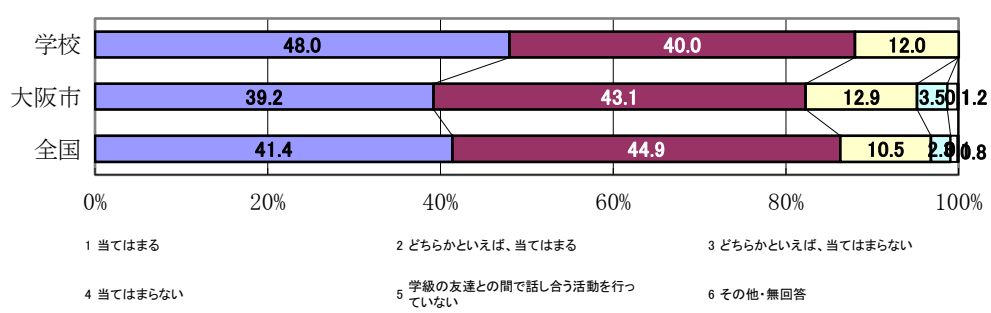
16

学校に行くのは楽しいと思いますか



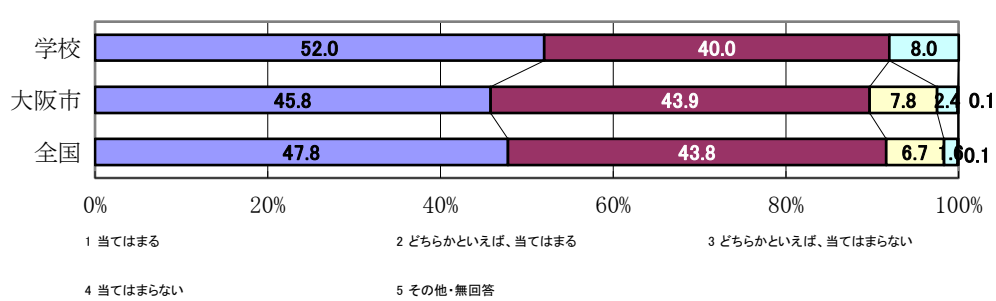
33

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか



37

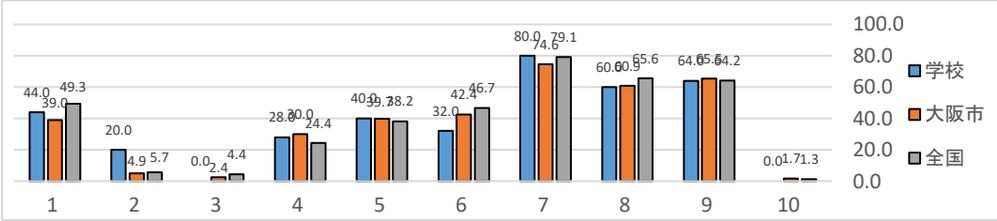
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか



児童質問より(26)

質問番号
質問事項

26
放課後や週末に何をして過ごすことが多いですか（複数選択）



1 家で勉強や読書をしている

2 放課後子供教室や放課後児童クラブ（学童保育）に参加している

3 地域の活動に参加している（地域学校協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む）

4 学習塾など学校や家以外の場所で勉強している

5 習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている

6 スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている

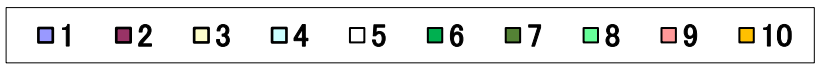
7 家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている

8 家族と過ごしている

9 友達と遊んでいる

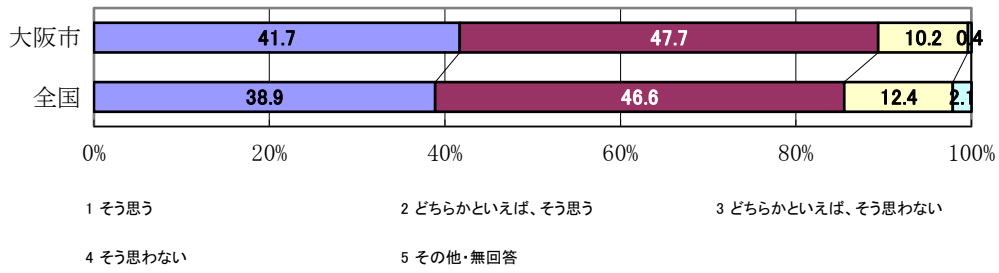
10 1～9に当てはまるものがない

学校質問より



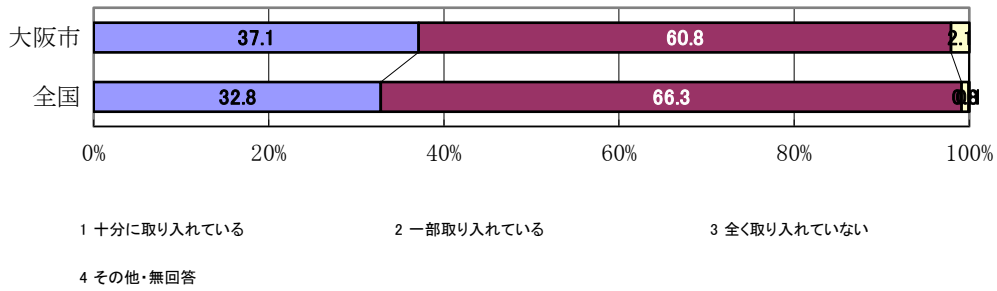
質問番号	質問事項
	調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

学校 「そう思う」を選択



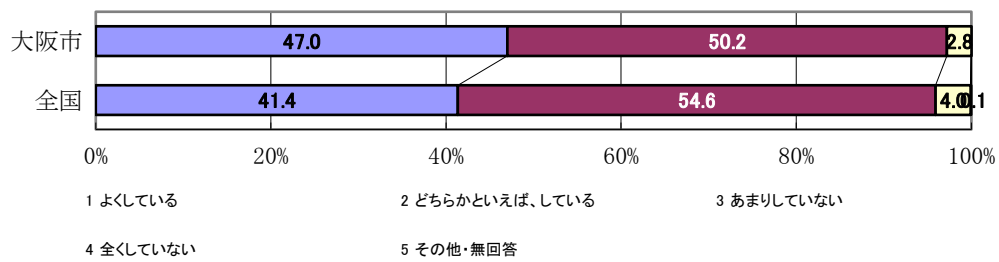
11	
	ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか

学校 「一部取り入れている」を選択



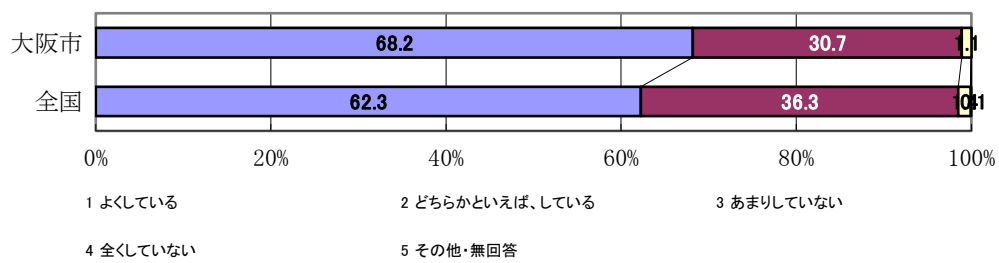
15	
	言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

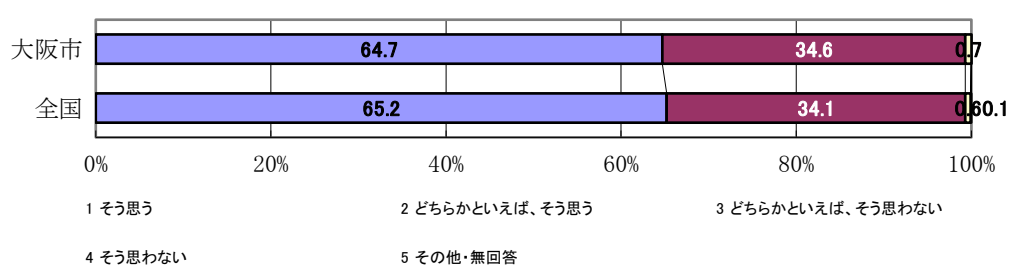
学校 「どちらかといえば、している」を選択



16	
	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか

学校 「よくしている」を選択



20	
	学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか

学校 「そう思う」を選択